

白羽小学校 海洋体験学習

平成 29 年 07 月 21 日

- 日 付：平成 29 年 7 月 12 日（水）
- 時 間：6：40～11：30
- 場 所：南駿河湾漁業協同組合、温水利用研究センター
- 参加者：白羽小学校 5 年生（児童 54 名、教員 3 名 計 57 名）
- スタッフ：松下、川口

他 2 名(南駿河湾漁業協同組合職員 1 名、温水利用研究センター職員 1 名)

昨年度から取り組む学校との連携事業として、今年度も御前崎市内の小学校を対象に海洋体験学習を行いました。今年度は各小学校の対象となる先生が主体となり、活動内容を共に考え実施します。

白羽小学校 5 年生は、昨年度に引き続き社会科の授業の一環として、『漁業から学ぶ御前崎の海』をテーマに活動を行いました。



白羽小学校は、御前崎を代表する魚『カツヲ』の競りの見学から活動がスタートします。カツヲの競りは一日の一番初めに行われる為、子ども達は、この日は朝早く家を出発し、学校から漁協へとやってきました。普段より一時間早い登校の為、眠さが残る子ども達がたくさんでしたが、競りが始まると一変。

仲買人さんたちの威勢の良さ、カツヲの多さに圧倒されながら見学を行いました。



カツヲの競りを見学した後は、漁協の職員の方から競りの簡単な説明を聞かさせていただきました。そして、次に行われる定置網で獲れる魚介類の競りへと見学場所を移動しました。



競りが始まるまでの時間、漁師さんや漁協の方が魚の説明などをしてくださいました。生けずの見学をさせて頂き、子ども達は、魚介類の種類の高さにびっくりした様子でした。



競りの始まる直前に、仲買人の皆さんが使う言葉の意味を教えてください、話している言葉にも集中をしながら競りの見学を行いました。

全ての競りの見学後、漁師さんから船の説明や漁法の説明も聞かせていただきました。



最後の施設見学として、海産物を冷凍保存させるための冷凍庫の見学もさせて頂きました。庫内にあるモノを見学しつつも、初めて体験したであろう-30℃の寒さに興奮した様子でした。とても貴重な体験をさせて頂きました。



漁協施設の見学後は室内に移動し、御前崎の漁業の特徴についてお話を聞かせていただきました。最後には、御前崎港で水揚げされたシラスのチリメン干しや海藻標本のしおりをいただきました。漁協での活動の後は、温水利用研究センターに場所を移し、施設見学・取り組みの説明を聞かせていただきます。



温水利用研究センターでは、施設見学からスタートします。初めに、飼育する魚たちの餌になるプランクトンや実際に稚魚を飼育する水槽を見せていただきました。



次に、アワビの稚貝を見せていただきました。子ども達は、アワビの成長のゆっくりさを教えていただき、食用になるまで5~6年ほどかかることに驚いた様子でした。その後、種苗生産の為に飼育する親の魚を飼育する水槽の見学もさせて頂きました。



マダイやヒラメ、クエの親魚を見せていただき、大きく立派な親の魚たちに、子ども達は興奮した様子でした。

その後、カニの幼生が住む水槽もを見せていただきました。ここでは、あまりの小ささ・親ガニとの身体の作りの違いに驚く子ども達がたくさんいました。



施設見学の後は室内に移動し、温水利用研究センターの取り組みや養殖・種苗生産の必要性についてお話を聞かせていただきました。

4年生時に学んだ環境問題にも繋がるお話があり、子ども達はみんな真剣に話を聞いていました。最後には、アワビの稚貝の貝殻をお土産にいただきました。

今回の活動を通し、子ども達は、地元で行われる食糧生産の現場を見学し、そして、そこで働く方たちのお話を聞くことで、漁業をより身近に感じてもらうことができました。

